



第56回 NGK スパークプラグ杯

鈴鹿サンデーロードレース

開催概要



2020 SUZUKA SUNDAY ROAD RACE

NOVEMBER 11.21-22

QUALIFY & RACE

■開催概要

- シリーズ名称 ; MFJ公認・承認2020鈴鹿・近畿選手権シリーズ最終戦
第56回NGKスパークプラグ杯鈴鹿サンデーロードレース
- 主催 ; 株式会社 モビリティランド 鈴鹿サーキット
- 協賛 ; 日本特殊陶業 株式会社
- 会場 ; 鈴鹿サーキット国際レーシングコース・フルコース(2輪/5.821km)
- 参加台数 ; 総参加台数/295台

CBR250R Dream Cupエキスパートクラス.....	28台
CBR250RR Dream Cup	27台
インターST600	24台
ナショナルST1000.....	38台
インターJ-GP3.....	10台(内、NSF250R.....2台)
ナショナルJ-GP.....	20台(内、NSF250R.....10台)
ナショナルST600	41台
インターJP250	4台
ナショナルJP250.....	26台
インターJSB1000.....	35台
インターST1000.....	16台
ST600R (Revival)	26台
- 開催日 ; 2020年11月21日(土)・11月22日(日)
- 天候/路面 ; 11月21日(土)・22日(日)ともに晴れ/ドライ



今大会をもちまして、2020鈴鹿・近畿選手権シリーズはレース日程はすべて終了しました。
2020年の開催スケジュール等につきましては、鈴鹿サーキット公式ホームページで随時ご案内いたします。
<https://apps.mobilityland.co.jp/msentry/download/1>



★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/



★レース写真は、バトルファクトリー様のHPで
ご購入いただけます。
<http://www.battle.co.jp/>





第56回 NGK スパークプラグ杯

鈴鹿サンデーロードレース

全体レポート



2020 SUZUKA SUNDAY ROAD RACE
NOVEMBER
11.21-22
QUALIFY & RACE

56回目を迎えた伝統の最終戦NGKスパークプラグ杯 全クラスでシリーズチャンピオンが決まるとともに激動の 2020年シーズンが終了!

2020年は新型コロナウイルスの世界的な蔓延の影響を受けたシーズンだった。鈴鹿サンデーロードレースも開幕戦と第2戦が中止に。実質的な開幕戦となったのは7月5日(日)に行われた第3戦だった。そして9月20日(日)に第4戦が開催され、今回が今シーズンの最終戦となった。

初日の11月21日(土)には各カテゴリーの公式予選の後、CBR250R Dream CupエキスパートクラスとCBR250RR Dream Cupの決勝レースが行われた。この2カテゴリーに関しては本来はこの最終戦にてそれぞれの日本一を決める「DUNLOP杯 グランドチャンピオンシップ」が行われる予定だったが、それらも新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて中止に。その代わりに通常のレースが追加開催されることとなった。CBR250R Dream Cupエキスパートクラスの公式予選では同ポイントでランキングリーダーの福井宏至と藤村太磯がタイムアタック合戦を披露。ポールポジションを獲得した藤村が中川比呂と好バトルを披露した末にトップチェッカーを受けてチャンピオンを決めた。

翌11月22日(日)は早朝よりそれ以外のカテゴリーの決勝レースが開始された。特に注目を集めたのは今シーズンから新たに設定されたST1000、中でも鈴鹿インターJSB1000との混走で行われた鈴鹿インターST1000だった。

21日(土)の公式予選ではこのカテゴリーの中村修一郎がJSB1000の中村敬司に続く総合2番手タイムをマーク。決勝レースで総合3位となったその中村(修)が鈴鹿インターST1000の初代チャンピオンに輝いた。

中村(修)はこのカテゴリーのレースが初めて行われた第3戦でポールポジションを獲得すると、決勝レースでは単独状態となり、そのままトップチェッカー。続く第4戦の公式予選でも中村(修)がJSB1000勢を抑えてトップタイムをマーク。決勝レースでは鈴木孝志と中村(修)のインターST1000勢が総合ワンツーでチェッカーを受けている。

このようにCBR250R Dream Cupエキスパートクラスや鈴鹿インターST1000をはじめ、見どころが多かった今回の最終戦は「NGKスパークプラグ杯」という名で親しまれている伝統の一戦。日本特殊陶業株式会社のご協賛の元、昭和40年から平成7年まで鈴鹿モトクロス大会として計31回が開催され、平成8年からは鈴鹿サンデーロードレースの最終戦として開催されるようになり、今年はその56回大会だった。2DAY大会として開催され、全カテゴリーのシリーズチャンピオンが決まったこのレースを最後に激動の2020年シーズンが無事終了した。

今シーズンは鈴鹿8耐への参戦チームを選抜する「8耐トライアウトFINALステージ」や鈴鹿8耐の本番レースも残念ながら中止となった。来シーズンはこれらのレースはもちろん、鈴鹿サンデーロードレースも全戦が無事開催されるように期待したい。





第56回 NGK スパークプラグ杯

鈴鹿サンデーロードレース

レースレポート(1)



2020 SUZUKA SUNDAY ROAD RACE
NOVEMBER
11.21-22
QUALIFY & RACE

■CBR250R Dream Cupエキスパートクラス

ホールショットを奪ったのはポールポジションスタートの藤村太磯。その藤村、3番グリッドスタートの中川比呂、2番グリッドスタートの福井宏至のオーダーでオープニングラップを帰ってくる。中川が藤村の直後を走行。そこから若干離れ、福井と4番グリッドスタートの折川翔馬もテールtoノーズの状態です。2周目に中川が藤村をパス。しかし中川がミス。すぐに藤村がトップに返り咲く。藤村は集団を抜け出し、一時的に単独トップとなるが、再び中川が藤村に接近すると4周目のデグナーカーブでこれをパス。折川も福井をパスする。藤村と中川、福井と折川はファイナルラップまでそれぞれトップ争い、3位争いを披露するが、藤村、中川、福井、折川のオーダーでチェッカー。藤村のチャンピオンが決まった。



CBR250R Dream Cupエキスパートクラス表彰式 (優勝:藤村太磯、2位:中川比呂、3位:福井宏至)

■CBR250RR Dream Cup

ポールポジションスタートの田中直哉と2番グリッドスタートの中川涼が横並びの状態です。ホールショットを奪った田中がオープニングラップ終了時点で早くも2位以降に2秒377のアドバンテージを築くことに成功。田中は2周目終了時点ではそのアドバンテージを4秒382へと拡大する。そこから離れて、中川、鈴木克正、森真らが激しい2位争いを展開。しかし森にジャンプスタートによるライドスルーペナルティが出され、その時点で森のチャンピオンの可能性が限りなく低くなる。次第に中川が単独2位に。結局、田中が中川以降に17秒741ものアドバンテージを築いてトップチェッカー。開幕戦となった第3戦に続き、田中が優勝を飾るが、3戦全てを2位フィニッシュすることとなった中川がチャンピオンを決めた。



CBR250RR Dream Cup表彰式 (優勝:田中直哉、2位:中川涼、3位:高橋孝浩)

■インター-ST600

3番グリッドスタートの松岡玲がホールショットを奪うが、4番グリッドスタートの井手翔太がS字コーナーひとつ目でトップに。さらにポールポジションスタートの佐野優人が松岡と井手をパスしてトップに立つ。佐野(優)、井手、2番グリッドスタートの佐野勝人のオーダーでオープニングラップを終了。一時的に佐野(優)が単独トップに。佐野(勝)、井手、芳賀涼大、綿貫舞空、松岡の5台がそれに続く。佐野(勝)が4周目の西ストレートで佐野(優)のテールに接近。井手、芳賀、綿貫、松岡が3位争いを続ける。佐野(優)は再び単独状態に。後続がバトルを続け、周回ごとに順位を入れ替える間も佐野(優)は独走状態を守り、3秒252ものアドバンテージを築いてトップチェッカー。9位の羽根巧がチャンピオンに輝いた。



インター-ST600表彰式 (優勝:佐野優人、2位:井手翔太、3位:芳賀涼大)



第56回 NGK スパークプラグ杯

鈴鹿サンデーロードレース

レースレポート (2)



2020 SUZUKA SUNDAY ROAD RACE

NOVEMBER 11.21-22

QUALIFY & RACE

■インターJ-GP3／ナショナルJ-GP3 HRC NSF250R Challenge

ポールポジションスタートの細谷翼が良いクラッチミートを披露し、スタートで頭ひとつ抜け出すことに成功。細谷、江澤伸哉、高橋直輝とグリッドのオーダー通りにオープニングラップを帰ってくる。細谷と江澤は単独トップ、単独2位に。その少し後方を高橋、大庭飛輝、川瀬啓一郎らが走行する。ナショナルJ-GP3ランキングリーダーの塚本武蔵が4周目の2輪専用シケインで転倒。これによりナショナルJ-GP3チャンピオン候補に繰り上がった高橋と山本航がサイドbyサイドのバトルを続ける。クラッシュしたマシンがあったことにより、赤旗が出されてレースは終了。細谷の優勝とインターJ-GP3ウィナーが決定した。同クラスのチャンピオンは総合7位の大庭。総合5位の高橋がナショナルJ-GP3チャンピオンに輝いた。



インターJ-GP3表彰式 (優勝:細谷翼、2位:江澤伸哉、3位:仲村瑛冬)



ナショナルJ-GP3表彰式 (優勝:高橋直輝、2位:山本航、3位:堀井颯大)



HRC NSF250R Challenge表彰式 (優勝:江澤伸哉、2位:仲村瑛冬、3位:高橋直輝)



第56回 NGK スパークプラグ杯

鈴鹿サンデーロードレース

レースレポート (3)



2020 SUZUKA SUNDAY ROAD RACE
NOVEMBER
11.21-22
QUALIFY & RACE

■ナショナルST1000

ポールポジションスタートの目代祐紀が良いクラッチミートを披露し、1コーナー進入までにひとり抜け出す。7番グリッドスタートの花村峻一が2位に浮上。目代はオープニングラップ終了時点で5秒184のアドバンテージを築くことに成功する。その後方で花村、喜田優人、池主永、越智健仁、前迫祥平の5台がテールtoノーズのバトルを展開。喜田、池主、越智が花村をパスする。シケインで2台が転倒したことにより赤旗が出され、レースは中断。5周で行われた第2ヒートでも目代がスタートで飛び出すと、オープニングラップ終了時点で後続に3秒214のアドバンテージを築く。その後方で喜田と池主が2位争いを展開。目代がポールtoウィンを飾り、全勝でチャンピオンに。最後に喜田をパスした池主が2位チェッカーを受けた。



ナショナルST1000表彰式 (優勝:目代祐紀、2位:池主永、3位:喜田優人)

■ST600R (Revival)

小松孝章が3戦連続でポールポジションを獲得。その小松がスタートでウィリーし、若干出遅れる。ホールショットを奪ったのは2番グリッドスタートの濱野龍。それに小松、3番グリッドスタートの井上正光と続く。オープニングラップのシケインで井上が小松をパス。濱野、井上、小松のオーダーになると、その3台はそれぞれ単独トップ、単独2位、単独3位に。若干離れて榎原健二が単独4位を走行。谷村尚彦、尾畑貞幸、山下尚紀が5位争いを展開する。山下が尾畑をパスするが、尾畑がすぐに6位に返り咲き、中盤の見せ場を作る。順調に周回を重ねていた濱野のテールを井上が捉えるが、濱野が再び単独トップに。その濱野がトップチェッカーを受けた。2位は井上。3位でチェッカーを受けた小松の逆転チャンピオンが決まった。



ST600R (Revival) 表彰式 (優勝:濱野龍、2位:井上正光、3位:小松孝章)

■ナショナルST600

ポールポジションからスタートしたランキングリーダーの屋代原野が1コーナーで転倒してしまう。2番グリッドスタートの可部谷雄矢、3番グリッドスタートの大中真次のオーダーで1コーナーへと突入。しかしトップでオープニングラップを帰ってきたのは角田祐介だった。大中、可部谷がそれに続く。トップ集団は周回ごとに順位を入れ替えるバトルを展開。大中をパスした可部谷は角田にも迫っていく。可部谷は5周目のシケインでトップに。一気に順位を上げた吉田愛乃助が可部谷のテールを捉えると7周目のヘアピンでこれをパス。その後も吉田、可部谷、角田はバトルを続けるが、吉田と角田が転倒したため、赤旗が出されてレースは終了。8周目終了時点の順位により優勝は吉田に。2位の可部谷がチャンピオンになった。



ナショナルST600表彰式 (優勝:吉田愛乃助、2位:可部谷雄矢、3位:角田祐介)



第56回 NGK スパークプラグ杯

鈴鹿サンデーロードレース

レースレポート (4)



2020 SUZUKA SUNDAY ROAD RACE

NOVEMBER
11.21-22

QUALIFY & RACE

■インターJP250／ナショナルJP250

ポールポジションスタートの安田毅史がスタートで若干出遅れる。ホールショットを奪ったのは3番グリッドスタートの南博之。それに安田、2番グリッドスタートの梶山采千夏と続く。その3台が130Rでスリーワイド状態に。安田、南、梶山のオーダーでオープニングラップを帰ってくる。南が安田をパスするが、2周目の終了時点では安田、梶山、南のオーダー。3周目には梶山が安田をパスしてトップに。4周目には南がトップとなる。南の背後に桐石世奈が接近。6周目にはそれら4台に5位争いの4台が加わり、トップグループは8台で争いに。安田、梶山のオーダーでファイナルラップへ。安田がトップチェッカーを受け、インターJP250の優勝を飾るとともにチャンピオンに。ナショナルJP250のチャンピオンは福井宏至だった。



インターJP250表彰式 (優勝:安田毅史、2位:南本宗一郎)



ナショナルJP250表彰式 (優勝:南博之、2位:福井宏至、3位:桐石世奈)



第56回 NGK スパークプラグ杯

鈴鹿サンデーロードレース

レースレポート (5)



2020 SUZUKA SUNDAY ROAD RACE

NOVEMBER 11.21-22

QUALIFY & RACE

■インターJSB1000／ST1000

ホールショットを奪ったのは2番グリッドスタートの中村修一郎。4番グリッドスタートの新庄雅浩、ポールポジションスタートの中村敬司がそれに続く。新庄をパスした中村(敬)は中村(修)の背後にも接近。西ストレートでトップに立った中村(敬)、中村(修)、田尻悠人のオーダーでオープニングラップを帰ってくる。田尻と黒木玲徳が中村(修)をパス。中村(敬)、田尻、黒木、中村(修)の4台がトップグループを形成する。田尻と福山京太が4周目の2輪専用シケインで転倒したことにより、赤旗が出される。5周による第2ヒートでは中村(敬)と黒木がトップ争いを展開し、中村(敬)がトップチェッカー。岩谷圭太がインターJSB1000のチャンピオンに輝いた。インターST1000のチャンピオンは中村(修)だった。



インターJSB1000表彰式 (優勝:中村敬司、2位:黒木玲徳、3位:田尻悠人)



インターST1000表彰式 (優勝:中村修一郎、2位:柴田義将、3位:新庄雅浩)



第56回 NGK スパークプラグ杯

鈴鹿サンデーロードレース

Voice of Pick up Rider -SUNDAY EDITION-



2020 SUZUKA SUNDAY ROAD RACE

NOVEMBER
11.21-22

QUALIFY & RACE

Voice of Pick up Riders

この日、キラリと光った
ライダーに—問—答—

-SUNDAY EDITION-

この日、キラリと光ったライダーに—問—答—
「Voice of Pick up Rider -SUNDAY EDITION-」

ナショナルST1000クラスで優勝、3戦全勝でタイトルを決めた

目代 祐紀 選手(34歳)
(KIT Racing / ヤマハYZF-R1)



Q.2連勝を飾って迎えた今回のレース。公式予選でトップタイムをマークし、ポールポジションを獲得しました。どんな予選でしたか？

赤旗が何度も出され、なかなかアタックできなかったのが精神的には焦りがありました。とにかくアタックしたかった。トップタイムを出せて良かったです。

Q.決勝レースの第1ヒート、第2ヒートともにオープニングラップから後続を引き離し続けました。

作戦は特にありませんでしたが、予選のタイム差があったので有利だとは思っていました。最後まで集中力を切らさないように走り、結果的には3戦全勝を飾ることができました。

Q.新設されたばかりのナショナルST1000クラスの初代チャンピオンに輝きました。どんなクラスでしたか。

参戦対象のマシンがメーカーのフラッグシップですからその進化が楽しみです、これからますます面白くなっていくカテゴリーだと思います。ただ、私は来シーズンは参戦しない予定です。勝ち逃げです(笑)。